

## 1.麻疹

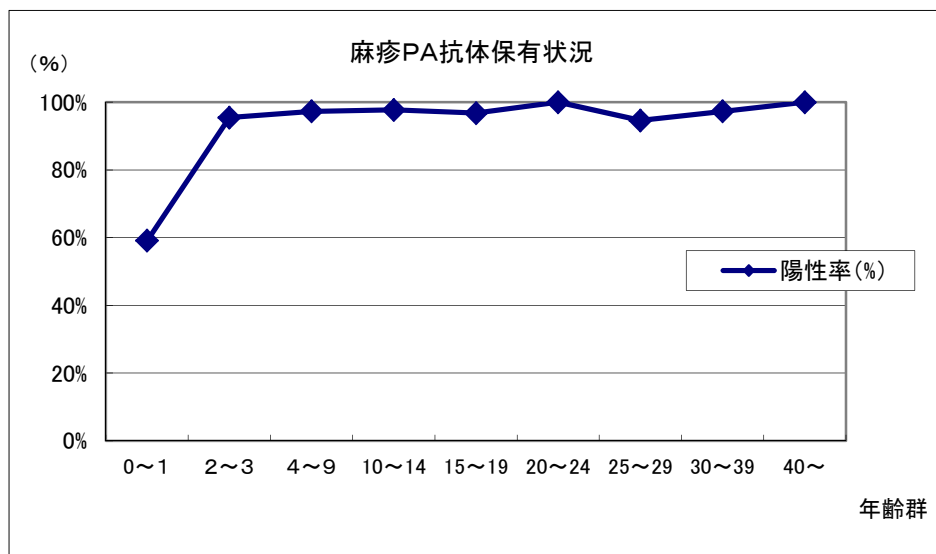
### 1)検体数

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～	合計
検体数	22	22	37	44	31	25	37	74	47	339

麻疹は合計339検体についてゼラチン粒子凝集 (particle agglutination:PA)にて麻疹PA抗体価を測定した。

### 2)麻疹PA抗体保有状況(%:PA価16倍以上陽性)

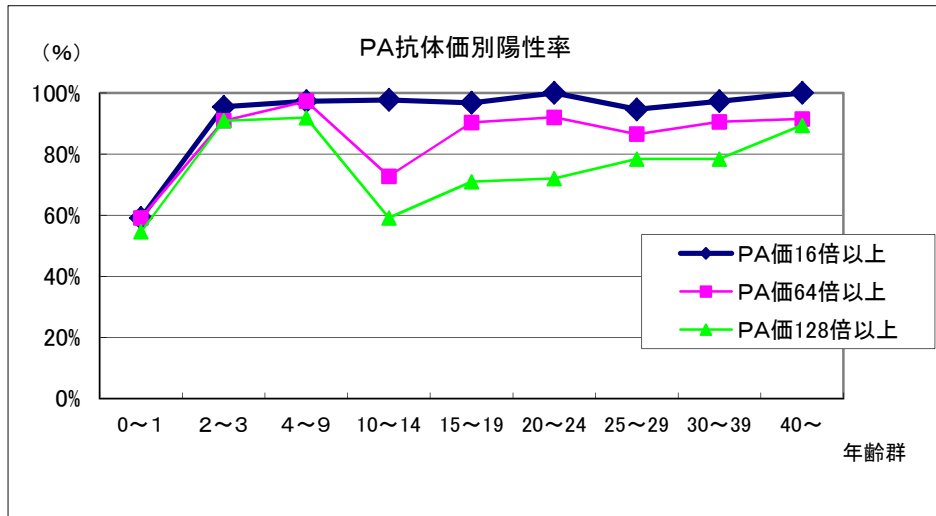
年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
陽性率(%)	59.1%	95.5%	97.3%	97.7%	96.8%	100.0%	94.6%	97.3%	100.0%



麻疹抗体保有状況は、20～24歳、40歳以上の年齢群で100%であった。25～29歳の年齢群で陽性率が95%を下回ったが、0～1歳の年齢群以外では陽性率が95%を超え高い保有率を維持していた。4～9歳、10～14歳、25～29歳の年齢群では昨年度より上昇した(昨年度はそれぞれ91.3%、95.5%、93.9%)。

### 3) 麻疹PA抗体価別陽性率(%)

年齢群	0～1	2～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～39	40～
PA価16倍以上	59.1%	95.5%	97.3%	97.7%	96.8%	100.0%	94.6%	97.3%	100.0%
PA価64倍以上	59.1%	90.9%	97.3%	72.7%	90.3%	92.0%	86.5%	90.5%	91.5%
PA価128倍以上	54.5%	90.9%	91.9%	59.1%	71.0%	72.0%	78.4%	78.4%	89.4%



抗体価は修飾麻疹を含めた発症予防可能レベルを考えるとPA価128倍以上が望まれる。平成28年度は0～1歳および25～29歳の年齢群を除く他の年齢群で抗体価の陽性率が95%を超え高い傾向があり、特に2～3歳および4～9歳の年齢群ではPA価128倍以上が90%を超えていた。

## 2.風疹

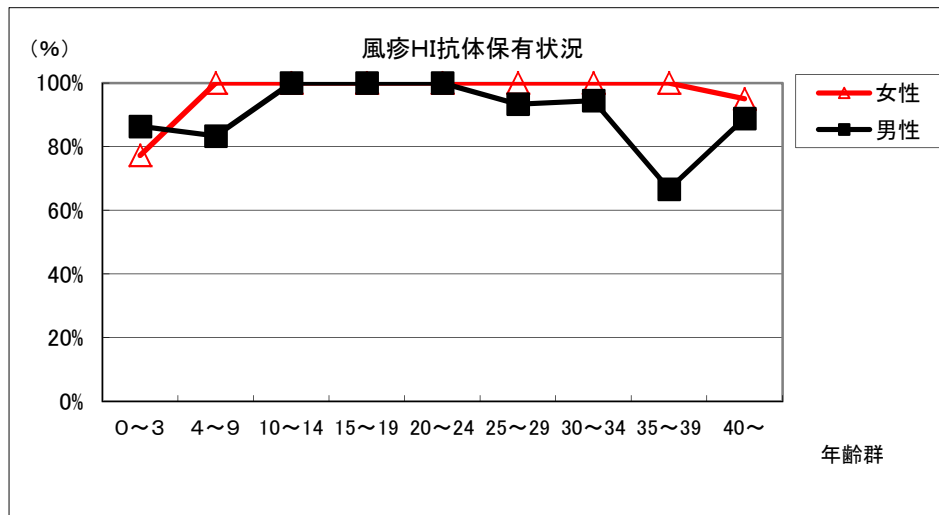
### 1)検体数

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～	合計
女性	22	19	22	17	13	22	18	20	20	173
男性	22	18	22	14	12	15	18	18	27	166
合計	44	37	44	31	25	37	36	38	47	339

風疹は合計339検体について風疹HI抗体価を測定した。

### 2)風疹HI抗体保有状況(%:HI価8倍以上陽性)

年齢群	0～3	4～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～
女性	77.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.0%
男性	86.4%	83.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.3%	94.4%	66.7%



風疹抗体保有率は、女性は0～3歳の年齢群を除く全ての年齢群で、男性は10～24歳の年齢群で95%以上を示した。女性は前回実施した平成26年度の結果では、25～29歳の年齢群で89.3%、30～34歳の年齢群で94.1%であり95%を下回っていた。平成28年度は0～3歳の年齢群を除く全ての年齢群で95%以上を示しており、保有率の増加がみられた。男性は前回の結果では、30～34歳の年齢群で89.5%、35～39歳の年齢群で84.6%であり90%を下回っていた。今年度は30～34歳の年齢群で94.4%であり保有率の増加がみられたが、35～39歳の年齢群で66.7%と低い傾向がみられた。